

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
副病院長 兼臨床研修副センター長 兼心臓・血管センター長 兼患者サポートセンター長 兼臨床工学・技術センター長	舩津 俊宏
部 長 兼 ICU/CCU センター長	良本 政章
医 長	山田 翔平
非常勤医員	琴谷 美咲

＜特色と概要＞

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈、末梢血管を中心とした多様な病変に外科治療をおこなっている。近年、心臓血管外科領域も手術の低侵襲化が進んでおり、当科でも積極的に取り組んでいる。弁膜症については僧帽弁疾患、三尖弁疾患、大動脈弁疾患、心房細動、一部の先天性心疾患に対して、完全3D内視鏡下手術、いわゆる低侵襲心臓手術(MICS)を行い、患者の早期回復を実現している。冠動脈バイパス術(CABG)についても従来の心拍動下バイパス(OPCAB)に加えて、左小開胸によるMICS-CABGも行っている。2024年末に竣工したハイブリッド手術室では、大血管疾患に対するステントグラフト内挿術を行い、より複雑な症例にも対応可能な体制とした。

2025年からは経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を開始し、循環器内科、麻酔科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学技士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種からなるハートチームで高齢者やハイリスク症例に対する大動脈弁治療における選択肢を増やした。

重症心不全に対する治療においては、左室補助デバイスであるImpellaを低左心機能症例に対する心臓大血管手術においても先制的に使用することにより、超ハイリスク症例の救命も可能となってきた。

一方、慢性期の日常臨床においては、かかりつけである地域の先生方と密に連携し(病診連携、病病連携)、シームレスな退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

＜実績＞

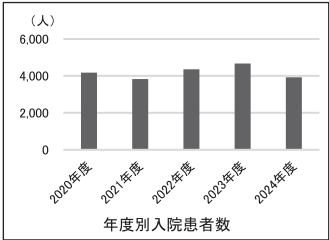
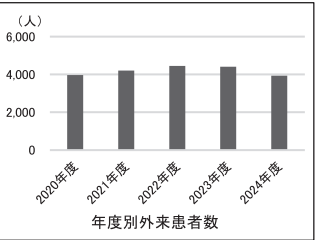
2024年1月～12月におこなった全手術数は173件、開心術101件で、昨年の196件、116件から少し減少した。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	26例*
弁膜症	56例*
MICS手術	21例
胸部大動脈瘤(開胸手術)	19例*
急性大動脈解離	6例*
心筋症、その他開心術	3例
先天性	1例
腹部大動脈瘤(開腹手術)	17例
腹部大動脈瘤(ステントグラフト)	6例
末梢血管手術	18例
その他手術	16例

*重複あり

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020年度	3,964	16.3	4,178	11.4
2021年度	4,201	17.4	3,830	10.5
2022年度	4,445	18.3	4,358	11.9
2023年度	4,407	18.1	4,666	12.7
2024年度	3,928	16.2	3,926	10.8



＜今年度の反省と来年度への抱負＞

心臓大血管手術数が昨年の116例から101例に減少した。同様に30例であったMICS手術も今年は21例にとどまった。

論文発表は低左心機能症例に対する心臓大血管手術時に先制的にImpellaを上行大動脈から挿入する方法を本邦で初めて報告した。学会発表は全国学会中心に9題を報告した。

来年度はMICS手術のみならず、全領域の手術数を増加させて心臓大血管手術数のV字回復を、さらに心臓・血管センターを挙げてTAVIの練度を上げ、症例数の増加を実現したい。学術面では国内学会のみならず、国際学会での発表や論文活動のさらなる充実に努めたい。

